

2019年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年7月30日

上場会社名 株式会社ハチバン 上場取引所 東
 コード番号 9950 URL http://www.hachiban.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 後藤 克治
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理部長 (氏名) 舟山 忠彦 TEL 076-292-0888
 四半期報告書提出予定日 2018年8月1日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第1四半期の連結業績 (2018年3月21日～2018年6月20日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第1四半期	2,020	7.0	1,871	7.1	36	△55.4	130	△24.4	81	△26.8
2018年3月期第1四半期	1,889	1.6	1,747	1.9	81	△46.2	172	△26.5	110	△25.0

(注) 包括利益 2019年3月期第1四半期 81百万円 (△25.1%) 2018年3月期第1四半期 108百万円 (9.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第1四半期	27.40	—
2018年3月期第1四半期	38.90	—

(注) 営業収益は売上高と営業収入の合計であります。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第1四半期	5,475	4,106	74.1
2018年3月期	5,188	4,054	77.2

(参考) 自己資本 2019年3月期第1四半期 4,057百万円 2018年3月期 4,005百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	10.00	—	10.00	20.00
2019年3月期	—	—	—	—	—
2019年3月期 (予想)	—	10.00	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2019年3月期の連結業績予想 (2018年3月21日～2019年3月20日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	営業収益		売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,262	6.6	3,955	6.8	202	△10.5	304	△6.1	188	△8.4	64.20
通期	8,238	7.7	7,647	8.2	354	19.1	463	15.9	286	20.6	97.68

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無
 2. 営業収益は売上高と営業収入の合計であります。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期 1 Q	3,068,111株	2018年3月期	3,068,111株
② 期末自己株式数	2019年3月期 1 Q	106,208株	2018年3月期	106,208株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期 1 Q	2,961,903株	2018年3月期 1 Q	2,851,308株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（日付の表示変更について）

当第1四半期連結会計期間より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境が改善され、緩やかな回復基調にあるものの、米国の通商政策動向の懸念や原油価格の高騰など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、消費者の強い節約志向に加え、原材料価格の上昇や人手不足などを背景とした人件費関連コスト等の上昇が続き、引き続き厳しい状況となっております。

このようななか当社グループは、「食の安全・安心」の向上はもとより、QSC（品質・サービス・清潔）、人材育成および生産性向上を今まで以上に徹底することに努め、お客様の信頼と満足を得ることを第一に事業活動を展開してまいりました。

店舗展開の状況は、本年4月に直営店として、石川県白山市の国道8号線沿いに開業した道の駅「めぐみ白山」のフードコート、株式会社ペッパーフードサービスのフランチャイズチェーンに加盟し「ペッパーランチ」をイオンモール新小松にオープンしました。キャッシュレス化や効率的なオペレーションなど各業態の良いところを取り入れながら、さらなる生産性向上に取り組んでおります。また、再開発が進むJR富山駅前、寿司と手造り料理を楽しめる「長八」を新規出店いたしました。

店舗数は、らーめん1店舗、和食1店舗、その他外食2店舗の計4店舗の新規出店があり、合計274店舗（前連結会計年度末比4店舗増）となっております。その内訳は、国内店舗ではらーめん店舗125店舗、和食店舗13店舗、その他外食4店舗（合計142店舗）、海外店舗は132店舗であります。

以上の結果、本年4月に直営3店舗を新規出店したことなどにより、当第1四半期連結累計期間の売上高は18億71百万円（前年同期比7.1%増）、営業収益（売上高とロイヤリティ収入等の合計）は20億20百万円（同7.0%増）となりました。一方、営業利益は、売上原価の上昇や開業費用等の支出により36百万円（同55.4%減）、経常利益は1億30百万円（同24.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は81百万円（同26.8%減）となりました。

セグメント別の状況につきましては次のとおりであります。

①外食事業

(らーめん部門)

8番らーめんフランチャイズチェーンの国内展開を主とするらーめん部門では、店舗の改装・移転による店舗イメージの刷新、より高品質・より健康志向の商品の提供、接客サービスの維持・向上に取り組み、来店客数の増加に努めております。

商品施策として、定番商品である「8番餃子」の改良、「能登中島菜ざるらーめん」を限定販売しております。また、店舗オペレーションの効率化を目的としたタブレット端末によるセルフオーダーシステムや電子マネー・クレジット決済の導入店舗を拡大し、接客サービスへの注力に向けた取り組みを行っております。

そのほか、社会貢献への取り組みとして、北陸3県の幼稚園と保育園を対象にした手洗い教室「食の安全・安心8番こども応援プロジェクト」を前年度から引き続き開催しております。

なお、8番らーめんフランチャイズチェーン既存店売上高は前年同期比0.1%増となりました。当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、8番らーめん加盟店の新規出店が1店舗あり、125店舗（うち加盟店114店舗、直営店11店舗、前連結会計年度末比1店舗増）であります。

(和食部門)

和食料理店を展開する和食部門においては、料理人の技術と新商品の開発力の向上に取り組み、季節に応じた健康志向メニュー、立地によって異なる客層・利用シーンに合わせたメニュー、牛肉を使った創作メニューの開発・提供に力を入れております。首都圏の旅行会社や地元企業様への営業活動により、県外客・地元客の獲得など、顧客の囲い込みに努めております。また、セントラルキッチンの活用により、店舗での仕込み作業の軽減やスピード提供、接客サービス向上にも注力しております。

なお、既存店売上高は前年同期比0.2%増、「長八」富山駅前店の新規出店があり、当第1四半期連結会計期間末の店舗数は13店舗（前連結会計年度末比1店舗増）であります。

(その他外食部門)

本年4月に新規オープンした道の駅「めぐみ白山」のフードコートにおいては、地元のジビエ料理や丼物等を提供する「地産百膳 風土ぴあ」、店舗で焼いたパンとドリンクを提供する「白山cafe」、新たな業態としてイオンモール新小松に「ペッパーランチ」を出店しました。また、北陸自動車道・徳光パーキングエリアの物販コーナーでは、地元石川の老舗店の和菓子、珍味や飲料のほかに、自社製品やコラボレーション商品など取扱品の充実を図っております。

当第1四半期連結会計期間末の店舗数は4店舗（前連結会計年度末比2店舗増）であります。

以上の結果、外食事業の当第1四半期連結累計期間の営業収益（売上高とロイヤリティ収入等の合計）は17億36百万円（前年同期比8.2%増）、経常利益は1億61百万円（同22.0%減）となりました。

②外販事業

外販事業は、より付加価値のある商品の開発と提案を行うことにより、長年培った当社ブランドを活用した製商品の販売に努めております。主力商品の生麺ブランド「八番麺工房」に、「常温麺」を使ったコラボ商品の開発を行いギフト用・お土産用として販売するほか、冷凍生餃子を地元スーパーマーケット様、国内各地の生活協同組合様、量販店様を通じて、一般消費者の方にお届けしております。また、知名度アップのため、イベント会場や物産展での店頭販売に積極的に出店し、引き続き業務用の卸販売やネット通販にも取り組んでおります。

以上の結果、生麺市場の販売競争の激化や物流費・人件費等の高騰もあり、当第1四半期連結累計期間の売上高は1億67百万円（前年同期比2.3%増）、経常損失は3百万円（前年同期は経常利益1百万円）となりました。

③海外事業

8番らーめんフランチャイズチェーンの海外展開においては、既存出店地域での新規出店、店舗のスクラップアンドビルド、接客サービスの向上に取り組んでおります。ラーメンスープ・エキス等の食材の輸入・販売においては、高品質の維持、新たなエキス・調味料の開発と生産体制の充実・増強に努めております。

本年3月に、Mesa Asia Pacific Trading Services Company Ltd.社とマスターフランチャイズ契約を締結したベトナムでは、年内を目途に1号店開業を目指しております。

当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、132店舗（うちタイ国124店舗、香港8店舗、前連結会計年度末比同数）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の営業収益（売上高とロイヤリティ収入等の合計）は、1億16百万円（前年同期比2.9%減）、経常利益は45百万円（同0.0%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末に比べ2億87百万円増加して54億75百万円（前連結会計年度末比5.5%増）となりました。これは主に、保険積立金が1億28百万円減少したものの、有形固定資産が1億56百万円、売掛金が1億46百万円、流動資産その他が1億11百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比べ2億35百万円増加して13億69百万円（前連結会計年度末比20.8%増）となりました。これは主に、未払法人税等が77百万円、買掛金が65百万円、賞与引当金が48百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比べ51百万円増加して41億6百万円（前連結会計年度末比1.3%増）となりました。これは主に、利益剰余金が51百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期及び第2四半期（累計）における連結業績予想は、2018年4月27日に公表しました「2018年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」に記載した数値から修正しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	818,427	753,756
売掛金	391,520	538,084
商品及び製品	81,231	104,170
原材料及び貯蔵品	21,276	28,049
繰延税金資産	48,179	112,371
その他	160,998	272,346
流動資産合計	1,521,634	1,808,778
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,025,067	1,169,561
機械装置及び運搬具(純額)	371,171	367,927
工具、器具及び備品(純額)	215,758	265,335
土地	1,073,094	1,073,094
建設仮勘定	52,043	17,548
有形固定資産合計	2,737,135	2,893,467
無形固定資産	53,207	51,437
投資その他の資産		
投資有価証券	187,592	189,245
長期貸付金	43,776	41,474
関係会社出資金	59,920	59,920
差入保証金	353,803	356,424
保険積立金	199,208	70,624
繰延税金資産	27,321	—
その他	24,849	23,975
貸倒引当金	△19,746	△19,362
投資その他の資産合計	876,724	722,301
固定資産合計	3,667,068	3,667,207
資産合計	5,188,703	5,475,985

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2018年3月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月20日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	253,824	319,631
短期借入金	37,351	19,852
未払法人税等	—	77,076
賞与引当金	93,974	142,836
役員賞与引当金	15,000	15,000
未払費用	272,868	314,463
その他	86,714	236,693
流動負債合計	759,732	1,125,551
固定負債		
長期末払金	213,751	65,369
繰延税金負債	—	17,599
長期預り保証金	160,841	161,451
固定負債合計	374,593	244,420
負債合計	1,134,325	1,369,972
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,518,454	1,518,454
資本剰余金	1,061,411	1,061,411
利益剰余金	1,740,385	1,791,941
自己株式	△319,212	△319,212
株主資本合計	4,001,039	4,052,594
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,311	4,522
為替換算調整勘定	1,711	434
その他の包括利益累計額合計	4,023	4,956
非支配株主持分	49,315	48,460
純資産合計	4,054,378	4,106,012
負債純資産合計	5,188,703	5,475,985

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年3月21日 至 2017年6月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年3月21日 至 2018年6月20日)
売上高	1,747,142	1,871,176
売上原価	908,282	976,944
売上総利益	838,860	894,232
営業収入	142,038	149,750
営業総利益	980,898	1,043,983
販売費及び一般管理費		
運賃	69,594	69,942
役員報酬	30,272	29,313
給料及び手当	335,682	357,313
賞与引当金繰入額	41,574	43,565
退職給付費用	4,395	4,609
地代家賃	75,051	87,762
水道光熱費	38,654	43,399
減価償却費	29,507	33,334
その他	275,058	338,589
販売費及び一般管理費合計	899,789	1,007,828
営業利益	81,109	36,154
営業外収益		
受取利息	602	341
受取配当金	86,844	90,440
受取地代家賃	9,545	12,206
為替差益	1,452	—
その他	3,273	5,834
営業外収益合計	101,719	108,822
営業外費用		
支払利息	145	56
貸貸費用	9,380	12,043
為替差損	—	1,573
持分法による投資損失	1,008	939
その他	3	30
営業外費用合計	10,537	14,642
経常利益	172,290	130,334
特別損失		
固定資産除却損	22	34
特別損失合計	22	34
税金等調整前四半期純利益	172,267	130,300
法人税、住民税及び事業税	64,500	69,500
法人税等調整額	△4,370	△20,238
法人税等合計	60,129	49,261
四半期純利益	112,138	81,039
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,212	△135
親会社株主に帰属する四半期純利益	110,925	81,174

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年3月21日 至 2017年6月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年3月21日 至 2018年6月20日)
四半期純利益	112,138	81,039
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,505	2,210
為替換算調整勘定	522	△1,409
持分法適用会社に対する持分相当額	281	△586
その他の包括利益合計	△3,701	214
四半期包括利益	108,436	81,254
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	106,957	82,108
非支配株主に係る四半期包括利益	1,479	△854

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2017年3月21日 至2017年6月20日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	外食事業	外販事業	海外事業	合計		
営業収益(注) 1						
外部顧客への営業収益	1,605,135	163,606	120,439	1,889,181	—	1,889,181
セグメント間の内部営業収益又は振替高	111,458	2,562	13,866	127,886	△127,886	—
計	1,716,593	166,168	134,305	2,017,067	△127,886	1,889,181
セグメント利益	206,509	1,702	45,389	253,601	△81,310	172,290

(注) 1. 営業収益は、売上高と営業収入の合計であります。

2. セグメント利益の調整額△81,310千円には、各セグメント間取引消去260千円、各セグメントに配分していない全社費用△81,570千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の経営管理に係る部門の費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2018年3月21日 至2018年6月20日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	外食事業	外販事業	海外事業	合計		
営業収益(注) 1						
外部顧客への営業収益	1,736,652	167,386	116,888	2,020,927	—	2,020,927
セグメント間の内部営業収益又は振替高	121,093	4,379	14,981	140,454	△140,454	—
計	1,857,745	171,765	131,870	2,161,382	△140,454	2,020,927
セグメント利益又は損失(△)	161,113	△3,759	45,400	202,755	△72,420	130,334

(注) 1. 営業収益は、売上高と営業収入の合計であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△72,420千円には、各セグメント間取引消去530千円、各セグメントに配分していない全社費用△72,950千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の経営管理に係る部門の費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。